

美術館だより

Contents

- 1 企画展「再興第109回院展 茨城五浦展」より(五浦美術館)
- 2 企画展「再興第109回院展 茨城五浦展」(五浦美術館)
- 3 企画展「グルメ展—食、自然、豊かなアート—」(五浦美術館)
- 4-5 企画展「旅にまつわる絵とせとら—歌川広重から東山魁夷まで—」(近代美術館)
- 6 令和6年度 新収蔵作品紹介(近代美術館)
- 7 企業パートナーシップ事業
- 8 インフォメーション

茨城県天心記念五浦美術館
「再興第109回院展 茨城五浦展」より



山浦めぐみ《A sight —45—》2024年 奨励賞・第30回天心記念茨城賞

若手日本画家として活躍する山浦めぐみは、本作では開放的なオープンテラスのある地元広島市街のカフェ45(キャラントサンク)に取材し、観葉植物や街路樹の緑を効果的に加え、自然と共存する都会の風景を表現しました。画面空間内における対象の描写に着目すると、カフェが精緻に描かれているのに対し、建物以外は余白が大きくとられ、さらにアルファベットや線のストロークが描き込まれるなど、従来の日本画にはない斬新な表現

が見られます。山浦は「物がもっている時間を一枚の絵の中に描きたい」と述べ、取材時に聞いていた音楽をアルファベットで、また街中を行き交う人や喧騒を線のストロークで表し、移りゆく時間や空間の体験など、視覚以外の感覚をも表現しようと試みています。本作は再興第109回院展に出品され、奨励賞に選ばれるとともに第30回天心記念茨城賞を受賞しました。

[天心記念五浦美術館 主任学芸員 永宮勤士]

会 期：2025(令和7)年6月21日[土]～7月21日[月・祝]
開館時間：午前9時30分～午後5時(入場は午後4時30分まで)
休 館 日：毎週月曜日

※ただし、7月21日[月・祝]は開館

入 場 料：一般950(820)円/満70歳以上470(410)円/
高校生710(590)円/小中生360(240)円
※()内は、20名以上の団体料金
※障害者手帳等をご持参の方及び付き添いの方1名は無料
※土曜日は高校生以下無料
※7月12日[土]は満70歳以上の方無料

主 催：茨城県天心記念五浦美術館/公益財団法人 日本美術院
後 援：朝日新聞水戸総局/茨城新聞社/NHK水戸放送局/産経新聞
社水戸支局/東京新聞つくば支局/毎日新聞水戸支局/
読売新聞水戸支局/LuckyFM茨城放送/北茨城市/
北茨城市教育委員会

展覧会の概要

日本美術院は1898(明治31)年、岡倉天心を中心に横山大観、下村観山、菱田春草ら気鋭の若手日本画家が参加し設立されました。1913(大正2)年の天心の逝去後にはその精神を受け継いだ大観、観山らによって再興の機運が高まり、翌14年に再興日本美術院が発足します。以後、多くのすぐれた日本画家を輩出するなど日本画壇を牽引し続け、今年9月には110回目の展覧会を迎えます。

当館が建つ茨城県北茨城市の五浦は、1906(明治39)年に日本美術院第一部(絵画)の研究所が置かれたことから、近代日本画史に残る日本美術院ゆかりの地として知られています。再興第109回院展の全国巡回の最後を飾る茨城五浦展では、第一線で活躍する同人の作品をはじめ、日本美術院賞、奨励賞、第30回天心記念茨城賞さらに茨城ゆかりの作家等の作品まで、あわせて60点を紹介します。

みどころ

・日本画壇の重鎮たちの意欲作から若手の受賞作まで

2024(令和6)年に文化勲章を受章した理事長・田淵俊夫、文化功労者となった那波多目功一、上野・寛永寺根本中堂の天井絵制作が注目を集めた手塚雄二など重鎮たちによる意欲作をはじめ、日本美術院賞(大観賞)と東京都知事賞をダブルで受賞した樋田礼子の作品など、昨年の日本画界で話題を集めた作家たちの作品をご覧ください。

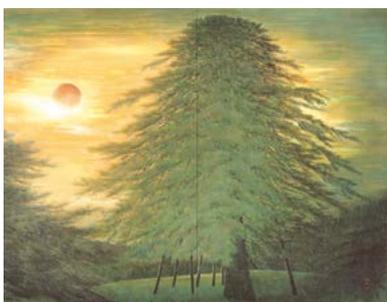
・天心記念茨城賞受賞の歴代作家から第30回の受賞者まで

茨城県は、1995(平成7)年より次代を担う画家の育成と日本美術の発展に寄与することを目的に、再興院展に対し、「天心記念茨城賞」を提供しています。歴代の受賞者たちは、その後、院展で受賞を重ねて同人に推挙されるほか、個展や院展以外の展覧会でも注目を集めるなど、それぞれ着実に成果をあげています。本展では屋久島の自然を壮大に描いた個展「不死鳥」で昨年話題を集めた西田俊英(第2回受賞者)をはじめ、2度目の日本美術院賞(大観賞)受賞となった川崎麻央(第26回受賞者)、今回第30回の受賞者となった山浦めぐみまで、本県が目撃してきた院展作家の現況をご覧ください。

・茨城ゆかりの作家を一堂に

茨城県ゆかりの同人・倉島重友、國司華子、山本浩之らの作品をはじめ、今回奨励賞を受賞した水見剛、若手で注目される中村瞭佑まで、本県に関わりのある院展作家の活躍を一堂にご覧いただけるなど、茨城会場ならではの作家のセレクトも本展の魅力のひとつです。

[天心記念五浦美術館 主任学芸員 永宮勤士]



那波多目功一《夕映の松》



倉島重友《月明かり》



川崎麻央《算》
日本美術院賞(大観賞)



手塚雄二《霞野》



山本浩之《迷》



樋田礼子
《井の頭(11)一樹下生一》
日本美術院賞(大観賞)・
東京都知事賞

企画展 グルメ展一食、自然、豊かなアートー

会 期：2025(令和7)年7月26日[土]～8月31日[日]
開館時間：午前9時30分～午後5時(入場は午後4時30分まで)
休 館 日：毎週月曜日

※ただし、8月11日[月・祝]は開館、翌12日[火]は休館

入 場 料：一般360(290)円／満70歳以上180(140)円／
高校生240(170)円／小中生170(110)円
※()内は20名以上の団体料金
※障害者手帳等をご持参の方及び付き添いの方1名は無料
※8月30日[土]は高校生以下無料

主 催：茨城県天心記念五浦美術館

展覧会の概要

おいしい料理を親しい人と食べる時、人は皆、笑顔になります。その笑顔を見て周りの人も嬉しくなり、次第に笑顔の輪が広がります。食事は、単に生命の維持に必要な栄養素を摂るという目的だけではなく、互いに心を開き語り合うことで打ち解け合い真に楽しいものになります。

周囲を海に囲まれ、海や山の広がる日本の豊かな自然は、私たちに多大な恵みをもたらしてくれます。人々は、古くは中国や朝鮮半島、東南アジア、近代以降は西洋などの海外文化を取り入れながら、我が国独自の食文化を育んできました。

本展では、日本画を中心に、油彩画、水彩画、浮世絵などを含めた幅広いジャンルから食にまつわる作品を紹介します。それぞれの画家が対象とどう向き合い、どう表現したか、その表現の多様性、そして豊かな個性をご覧ください。併せて、食材を生む背景となる茨城の豊かな自然

環境と、人と人をつなぐ「食の魅力」、地域と美術館をつなぐ連携で「茨城の魅力」も再認識する展覧会です。

みどころ

- ①食材を生む背景には自然があることに着目し、小林巢居人《田園の四季(夏)》や松尾敏男《五浦潮音》など、茨城の自然の豊かさを描いた作品を紹介します。
- ②明治期以降の作品と併せて、浮世絵に表現された食材、江戸時代に発刊された貴重な図書資料を展示します。時代を超えた江戸っ子のグルメぶりもぜひご覧ください。
- ③岡倉天心記念室では、横山大観や菱田春草が学生時代に描いた食材をモチーフにしたデッサンを展示します。
- ④夏休み特別企画として、本展会期中の毎日が「スマイルトーク・デー」となっております。家族や友達と作品について会話を楽しみながらご鑑賞ください。
- ⑤ワークショップ「フルーツパフェをつくろう!」で制作した作品を館内に展示し、全館で「グルメ展」を盛り上げます。
- ⑥本展の地域連携特別企画として、「得得くり～むそ～だ・シール」を県北地域の「茨城県農林水産物取扱指定店」や都内のショップ「IBARAKI SENSE SHOP」などで配布。このシールによる割引サービスを実施するなど、食を通して地域連携を図り「茨城の魅力」も再認識する展覧会です。

[天心記念五浦美術館 学芸主査 武石洋]



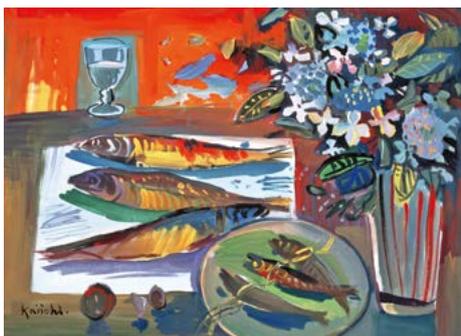
小川芋銭《涼気流》1937年 茨城県近代美術館蔵



小田野尚之《クリームソーダ》2004年 個人蔵



五島耕敏《当年の覇者》1952年 茨城県近代美術館蔵



互井開一《魚と花》1966年 茨城県近代美術館蔵



歌川広重
《諸国名産 東都日本橋初物・東都大森漬物蒲田之梅・
大山土産梅酢鉦麦齋細工・相州江の嶋産鮑かす漬貝細工》
天保(1830-44) 中期 那珂川町馬頭広重美術館蔵



東昭光《白卓》1987年 茨城県近代美術館蔵

会 期：2025(令和7)年7月16日[水]～8月31日[日]
 ※会期中、一部展示替えを行います
 開館時間：午前9時30分～午後5時(入場は午後4時30分まで)
 休 館 日：毎週月曜日
 ※ただし7月21日[月・祝]・8月11日[月・祝]は開館、翌日休館
 入 場 料：一般820(690)円／満70歳以上410(340)円／
 高校生550(420)円／小中生270(200)円
 ※()内は20名以上の団体料金
 ※障害者手帳等をご持参の方及び付き添いの方1名は無料
 ※7月19日[土]、8月30日[土]は高校生以下無料
 ※7月19日[土]は満70歳以上の方は無料
 主 催：茨城県近代美術館
 後 援：水戸市／朝日新聞水戸総局／茨城新聞社／
 NHK水戸放送局／産経新聞社水戸支局／
 東京新聞つくば支局／日本経済新聞社水戸支局／
 毎日新聞水戸支局／読売新聞水戸支局／LuckyFM茨城放送

展覧会の概要

本展では、旅にまつわる多彩な絵画およそ200点をご紹介します。江戸時代の浮世絵に描かれた、人々がにぎやかに行き交う宿場町、明治期に海外へわたった画家たちが新鮮な驚きを込めて表した異国の光景、いにしえより描き継がれてきた風光明媚な名所など、旅の魅力が詰まった作品が集結します。

また、200年以上前に人気を博したガイドブック『旅行用心集』(八隅蘆庵著、1810年刊行)をはじめ、近代以降の画家たちが挿絵を手掛けた旅行雑誌や鉄道のポスターといった旅の“エトセトラ”にも注目します。時代ごとの旅の様子や文化を映し出す貴重な作品や資料をとおして、その時々にも生きた人々が抱いた、旅することへの憧れや喜びに思いを馳せてみてはいかがでしょうか。

みどころ

①歌川広重から東山魁夷まで約60作家、約200点が集結
 初代歌川広重が手掛け爆発的ヒットとなった「東海道五拾三次」の浮世絵シリーズを筆頭に、横山大観が明治期にインドで出逢った光景を描いた《流燈》(1909年)、旅を創作活動の源とした国民的風景画家・東山魁夷による北欧連作の一つ《白夜光》(1965年)など、江戸時代後期から現代にいたるまで、約60名の作家、約200点による旅情あふれる作品をご覧ください。

②世界から日本、茨城の名所めぐりを疑似体験

展覧会場では絵画をとおして、画家たちが実際に訪れて描いたフランス・イタリア・イギリスなどのヨーロッパ、中国・インドなどのアジアといった世界各国の名所めぐりを疑似体験していただけます。また、国内の景勝地においては、連綿と絵の題材になってきた富士山はもちろん、古くから愛されてきた筑波山や袋田の滝といった茨城ならではの風景も取り上げます。

さらに本展では、茨城にゆかりの深い水郷を中心に、水辺の情景も多数ご紹介します。とりわけ小杉未醒の《水郷》(1911年)は、画家が現在の茨城県潮来市を「佳き風景」と気に入り、何度も訪れるなか描いたもので、第5回文展で最高賞を受賞し世間にも広く認識された優品です。そのほか、牛久沼のほとりに居を構えた小川芋銭、潮来出身の小堀進らは、いずれも水郷を繰り返し描いたことで知られます。彼らの愛情と親しみに満ちた風景表現にも是非ご注目ください。



初代歌川広重《東海道五拾三次之内 庄野 白雨》
1930年代 郵政博物館蔵 ※8/16～8/31 展示



三代歌川広重
《東海道名所改正道中記
旅人留女 亀山 関沓り半》
1875年
東京都江戸東京博物館蔵
※7/16～8/3 展示



横山大観《流燈》
1909年 当館蔵



五姓田義松《朝陽の富士》1903-05年頃 当館蔵



三宅克己《パッキナム宮殿の前》1912-26年頃 当館蔵



東山魁夷《白夜光》1965年 東京国立近代美術館蔵



中西利雄《波止場(マルセイユ)》1929年 当館蔵



五代歌川国政《新規造掛永代橋往来繁華佃海沖遠望之図》
1875年 東京都江戸東京博物館蔵 ※8/5～8/31展示



三代歌川広重
《東海道名所改正道中記 六郷川鉄道 川崎 神奈川迄二り半》
1875年 郵政博物館蔵 ※7/16～7/31展示



吉田初三郎《小田原急行電車開通記念》1927年 東京都江戸東京博物館蔵

③ エトセトラで楽しむ、旅事情の今昔

現代にいたるまで、数々の画家たちが旅の風景を描いてきたのには、時代ごとの出来事や社会的な動向が深く関係していたことも見逃せません。たとえば、明治以降、近代化が進むとともに急速に発達した交通網、昭和初期に新聞社が主導した日本新八景の選定による名所ブーム、あるいは戦時下における聖地巡拝の流行などは、画家の旅のあり方や創作活動そのものに影響を与えました。

本展では、旅の“エトセトラ”として、日本初のグラフィックデザイナーとして知られる杉浦非水が装丁を手掛けた旅行雑誌『ツーリスト』や、「大正の広重」と称された吉田初三郎による鳥瞰図の観光案内といった資料類にも注目しながら、普段の作品鑑賞ではなかなか知りえない、画家たちが体験した旅事情の今昔をご紹介します。

④ 楽しい落語のイベントも！

展覧会期間中の8月2日(土)には、茨城県を落語で盛り上げようと結成された落語家ユニット「いばらく」の落語家・立川志のぼんさん(石岡市出身)、柳亭市寿さん(取手市出身)をお迎えし、「美術館寄席～江戸の旅路を笑いにのせて」を開催します(申込不要、参加無料、要企画展チケット、当日午前9時30分～整理券配布 お一人様1枚まで)。展覧会とあわせて、江戸時代の旅の風情や文化を感じてみてはいかがでしょうか。

[近代美術館 主任学芸員 高田紫帆]



小杉未醒《水郷》
1911年 東京国立近代美術館蔵



中沢弘光《水郷より筑波遠望》1955-64年 当館蔵



小川芋銭《霞ヶ浦》1935年 当館蔵



小堀進《朝陽(霞ヶ浦)》1955年 当館蔵



立川志のぼん



柳亭市寿

令和6年度 新収蔵作品介绍

茨城県近代美術館では、令和6年度に、県内外の皆様から9点の作品をご寄贈いただきました。その結果、2点の管理換え作品を含め、日本画5点、版画5点、彫刻1点の合計11点が新たに美術館の所蔵品に加わりました。

これらの寄贈により、当館のコレクションはより充実したものとなりました。この場をお借りして寄贈者の皆様をはじめ、関係者の方々に厚く御礼申し上げます。

新収蔵品は、本年度の所蔵作品展の中で順次ご紹介いたします。



間島秀徳《Kinesis No.316 (hydrometeor)》2007年
パネル、麻紙、水、墨、アクリル、顔料、樹脂膠(三点組)
井村伸次氏寄贈 撮影:飯村昭彦

取手市出身、かすみがうら市在住の画家、間島秀徳による大型作品です。二曲屏風状のパネルが「く」の字型に3つ向かい合わせに設置され、上から見ると六角形の空間となり、内側と外側で違った表情を見せる作品となります。

作家の代表作のひとつで、2023(令和5)年、五浦美術館で開催した「間島秀徳展 天地無常」での出品を契機として、ご寄贈いただきました。



北川民次
《南方の花》1967年
《水浴の母子》1967年
ともにリトグラフ・紙
佐藤修氏寄贈

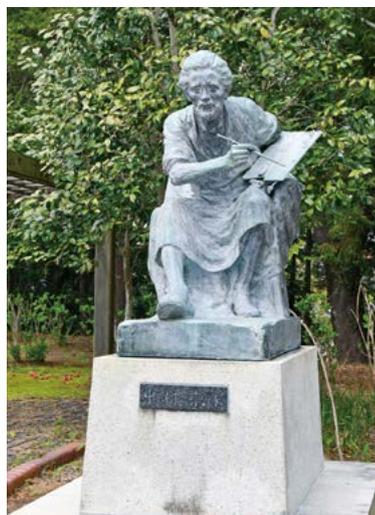
メキシコに渡って、現地で児童に絵を教えながら画家として出発した作者は、帰国後、同地に取材した作品のほか、労働者、大衆の姿などを描いたことで知られています。油彩画だけでなく版画も生涯を通じて制作しており、とくに晩年には多くの版画作品を発表して人気を博しました。



染谷香理《アクシデンタル インタラクション》2023年
紙本・彩色 作者寄贈(管理換)

再興第108回院展で奨励賞、天心記念茨城賞を受賞した作品です。

装飾的な画面のうちに女性像を描く作品で評価される作者は、2021(令和3)年、初めて海外で個展を開催し、それが日本文化や日本画について再考する機会となったそうです。題名は「意図しない相互作用」というような意味で、ニューヨーク滞在の経験から生まれた作品となっています。



堀進二《中村彝君像》
1967年 ブロンズ
中村会寄贈(管理換)

1966(昭和41)年、茨城県立県民文化センター(現在は「ザ・ヒロサワ・シティ会館」)が完成し、同施設内に茨城県立美術博物館が開館しました。本作品は1968年、中村会(後に中村彝会)から茨城県に寄贈され、美術博物館入り口近くに設置されたものです。

2024(令和6)年の「没後100年 中村彝展」開催にあわせて美術館運営支援協議会が実施したクラウドファンディングの支援金により、2025年1月に当館敷地内、中村彝アトリエ近くに移設され、所蔵作品として改めて登録されました。

茨城県近代美術館企業パートナーシップ事業

—パートナー企業とともに創り上げる芸術文化振興の取り組み—

地域社会への貢献を理念に掲げ、より良い社会づくりに取り組まれる企業等と美術館がパートナーシップを結び、さらなる連携・協働を図っていくことで美術館の活動を一層充実させていこうという取り組みは6年目を迎えました。事業の詳細は当館HPでご確認ください。 <https://www.modernart.museum.ibk.ed.jp>

◇これまでの実践成果

<企画展の充実>

従来の展覧会予算に加え、パートナー企業支援金を有効に活用し、魅力ある充実した企画展を開催しています。

- 令和4年度 速水御舟展 (開催費用の一部を負担)
- 令和5年度 美術にみる〈農〉の世界 (開催費用の一部を負担)
- 令和6年度 中村彝展 (開催費用の一部を負担)



中村彝展オープニング

<広報活動の充実>

パートナー企業の支援金や役務の提供により、これまでにない積極的な広報活動を展開しています。



常陽銀行デジタルサイネージ



バス車体広告(関東鉄道)



バス車体広告(茨城交通)



イオンモールアプリ



B1ポスター(水戸駅)



B1ポスター(TXつくば駅)

<教育普及活動の充実>

小学校の教育活動として来館される場合のバス借り上げ料等を、パートナー企業支援金で助成します。展覧会鑑賞をはじめ対話型鑑賞やワークショップ等で子どもたちの豊かな感性と創造性を育んでいます。昨年度までに82校 3,178人が参加されました。今年度も29校が来館する予定です。

<新たなパートナー企業>

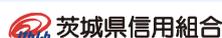
今年度は、茨城トヨタ自動車株式会社様をプラチナパートナーとして、また、新たにシルバーパートナーとして株式会社 LuckyFM 茨城放送様をお迎えしました。パートナー企業は15となりました。



パートナー企業の皆様



近代美術館友の会



INFORMATION

MOMA
IBARAKI

6月～9月のご案内

茨城県近代美術館

《企画展・関連イベント》

《アート・アンド・クラフツとデザイン
ウィリアム・モリスからフランク・ロイド・ライトまで》
4月19日[土]～6月29日[日]

《旅にまつわる絵とせとら》
7月16日[水]～8月31日[日]

・美術館寄席「江戸の旅路を笑いにのせて」
出演：立川志のぼん（落語家）、柳亭市寿（落語家）
日時：2025年8月2日[土] 午後2時～3時30分
会場：地階講堂 / 定員：250名（申込不要、参加無料）
※子ども向けのオープニングワークショップ2025 夏
当日午前9時30分～整理券配布 お一人様1枚まで

・鑑賞講座
講師：高田紫帆（本展担当学芸員）
日時：2025年8月11日[月] 午後2時～3時30分
会場：地階講堂 / 定員：250名（申込不要、参加無料）
・学芸員によるギャラリートーク
講師：高田紫帆（本展担当学芸員）
日時：2025年7月20日[日] 午後2時～3時
会場：2階企画展示室 / 定員：なし（申込不要、要企画展チケット）
・子どものためのオープニングワークショップ2025 夏
日時：8月22日[金]、23日[土]
午前10時～12時 午後1時30分～3時30分
会場：地階講座室、会議室

《安野光雅美術館コレクション 安野先生のふしぎな学校》
9月13日[土]～11月16日[日]

《所蔵作品展 第1展示室》

《日本の近代美術と茨城の作家たち 春から夏へ》
後期5月27日[火]～7月2日[水]

《日本の近代美術と茨城の作家たち 夏》
7月19日[土]～8月30日[土]

《所蔵作品展 第2展示室》

《小堀進と水彩画の魅力》
4月11日[金]～7月2日[水]

《流動と痕跡 間島秀徳の作品を中心に》
7月19日[土]～8月30日[土]

《アートフォーラム》

《絶景!すごろく旅/ハフタクさんのお守り作り》
7月16日[水]～8月31日[日]

《その他のイベント》

・ようこそ!美術の森へ学芸員と巡るコレクション
日時：6月21日[土]、7月19日[土]、8月16日[土]
各日とも午前11時～(30分程度)
会場：1階所蔵作品展展示室
定員：なし（申込不要、要所蔵作品展チケット）
※各イベントの詳細や申込方法は当館ホームページをご覧ください。

茨城県つくば美術館

《土曜講座》

時間：各日午後1時30分～(1時間半程度)
会場：2階アルスホール
料金：無料
7月12日[土]
・第4回 再興院展110年の歴史
[講師] 永宮勤士(茨城県天心記念五浦美術館主任学芸員)

8月9日[土]

・第5回「旅にまつわる絵とせとら」展について
[講師] 高田紫帆(茨城県近代美術館主任学芸員)
9月13日[土]
・第6回「THE HEADLINERS 2025」一活況あふれる現代の陶芸アートシーン
[講師] 岩井基生(茨城県陶芸美術館主任学芸員)

《ビデオ鑑賞》

時間：各日午後1時30分～
会場：2階講座室
料金：無料
6月21日[土]
・第1回 名画の秘密① オルセー美術館(50分)
7月5日[土]
・第2回 名画の秘密② パリの夜と夢(50分)
8月23日[土]
・第3回 特別上映：茨城県の作家①
絵空事からのメッセージ 十河雅典の世界(16分)
時として花のように 吉田正雄(13分)
東洋的幻想の世界を求めて 画家 立見榮男(19分)
作家をたずねて 松井康成(24分)
9月27日[土]
・第4回 名画の秘密③ ルネサンスの巨匠(50分)

《とびだす!カードづくり つくぞうつくぞう!》

時間：各日午後1時30分～2時30分
会場：2階講座室
料金：無料
参加：当日受付(先着順・20名程度) ※事前予約はごできません。
6月28日[土]
・第3回 テーマ：セツ
7月26日[土]
・第4回 テーマ：夏まつり
8月16日[土]
・第5回 テーマ：お月見
9月20日[土]
・第6回 テーマ：ハロウィン

《ギャラリートーク》

6月17日[日]～6月22日[日]
・第22回松山敦子キルトスタジオA-two/パッチワークキルト展【パッチワークキルト】
6月24日[日]～6月29日[日]
・第3回西尾勢水彩画展【絵画】
7月1日[日]～7月6日[日]
・武蔵野美術大学校友会 第22回茨城支部展【総合】
7月8日[日]～7月21日[月・祝]
・令和7年度茨城県移動展覧会「茨城の美術セレクトション」【絵画・工芸】
7月23日[水]～7月27日[日]
・第35回茨城自然写真の会等々展【写真】
8月1日[金]～8月11日[月・祝]
・つくばメディアアートフェスティバル2025【写真・映像他】
8月13日[日]～8月17日[日]
・第8回中韓芸術展【総合】
8月19日[日]～8月31日[日]
・夏休みアート・マルシェ2025作品展【絵画・彫刻】
9月2日[日]～9月7日[日]
・第7回茨城県独立書人団【祝】
9月9日[日]～9月15日[月・祝]
・森田宗明展【絵画】
9月17日[水]～9月21日[日]
・名前のない明日から【写真・映像】
9月23日[日]～9月28日[日]
・紫流書道会学生展 併催 興水紫石書展【書】

茨城県天心記念五浦美術館

《企画展・関連イベント》

《再興第109回院展 茨城五浦展》
6月21日[土]～7月21日[月・祝]

・院展同人・倉島重友氏、山本浩之氏によるギャラリートーク及びサイン会
・ギャラリートーク
日時：6月21日[土] 午前10時～10時50分
会場：企画展示室 ※要企画展当日入場券、申込不要

・サイン会
日時：6月21日[土] 午前11時～(ギャラリートーク終了後)
会場：エントランスロビー
定員：先着50名(再興第109回院展図録にサインします)
・茨城大学五浦美術文化研究所70周年記念事業
・フロストーク「日本美術院の系譜—五浦で岡倉天心を語る—」
講師：手塚雄二氏(日本美術院同人/福井県立美術館特別館長)×小泉晋哉(当館館長)
日時：6月21日[土] 午後2時～3時
会場：講堂 定員：80名(要事前申込)
※申込み、その他詳細は茨城大学 社会連携課(TEL.029-228-8425)まで
・実技講座「自分なせを作ろう」
講師：山本浩之氏(日本美術院同人/筑波大学准教授)
日時：6月29日[日] 午後1時～5時
会場：講座室
定員：12名(要事前申込、抽選制、材料費は受講者負担)
・展覧会担当者によるギャラリートーク
日時：7月6日[日]、7月20日[日] 各日午後1時10分～
会場：企画展示室 ※要企画展当日入場券、申込不要

《グルメ展—食、自然、豊かなアート—》

7月26日[土]～8月31日[日]
・ワークショップ「フルーツパフェ」をつくろう!
日時：8月2日[土] 午前10時～午後3時
会場：講座室
定員：16名程度(要事前申込、抽選制、要企画展当日入場券、材料費が
必要となります)

対象：1日ご参加できる方
・講演会「人と食のかかわり」
講師：中川一氏(中川学園調理技術専門学校長/茨城県近代美術館
友の会会長)
日時：8月3日[日] 午後1時30分～3時
会場：講堂
定員：114名 ※要事前申込、要企画展入場券(半券可)
・展覧会担当者によるギャラリートーク
日時：7月26日[土]、8月17日[日] 午後1時20分～
会場：展示室A ※要企画展当日入場券、申込不要

《水木しげるの妖怪 百鬼夜行展

～お化けたちはこうして生まれた～
9月12日[金]～10月26日[日]

《その他のイベント》

・岡倉天心記念室 障壁画ツアー
日時：6月29日[日] 午前10時～11時
会場：岡倉天心記念室
定員：30名 ※要常設展当日入場券、当日先着順
・金の砂子de布ッパ
日時：7月5日[土] 午前10時～、午後1時30分～
会場：講座室
定員：各回20名程度 ※要企画展入場券(半券可)、申込不要
・来て・見て・発見!アートツアー for kids
日時：7月19日[土] 午前10時～
会場：講座室、企画展示室
定員：小中学生と保護者5組(1組4名まで)
※要事前申込(先着順)、6月20日[金]から受付開始、保護者のみ要企画展入場券
※各イベントの詳細や申込方法は当館ホームページをご覧ください。

《映画会(五浦名画座)》

会場：講堂
定員：各回114名(当日受付先着順・申込不要) / 無料
時間：午前の部9時45分～、午後の部1時30分～
・7月13日[日] 「冬の夏休み」98分
・8月10日[日] 「ひと月の夏」92分
・9月14日[日] 「宝島」96分

※最新の情報は各館ホームページ等でご確認ください。



茨城県近代美術館

〒310-0851
水戸市千波町東久保666-1
TEL 029-243-5111
FAX 029-243-9992

HP <https://www.modernart.museum.ibk.ed.jp/>



茨城県つくば美術館

〒305-0031
つくば市吾妻2-8
TEL 029-856-3711
FAX 029-856-3358

HP <https://www.tsukuba.museum.ibk.ed.jp/>



茨城県天心記念五浦美術館

〒319-1703
北茨城市大津町橋2083
TEL 0293-46-5311
FAX 0293-46-5711

HP <https://www.tenshin.museum.ibk.ed.jp/>

県立美術館3館(近代美術館・天心記念五浦美術館・陶芸美術館)共通の年間パスポートを発売中! 詳しくはお問い合わせください。

美術館では以下の方は無料で展覧会をご覧ください。

○土曜日来館の高校生以下の方(ただし、土曜日が夏季、冬季及び学年末・学年始における学校の休業日に当たるときは除きます) ○教育活動としての茨城県内の小・中・高・義務・中等教育・特別支援学校(県外含む)の児童生徒及び引率者並びに教育活動としての茨城県内の幼稚園の幼児の引率者 ○国際交流事業として国外から本県に留学している方 ○児童福祉施設、身体障害者更生支援施設、知的障害者支援施設、老人福祉施設に入所している方及び付き添いの方(1人につき付き添い1人まで) ○身体障害者手帳、療育手帳の交付を受けている方及び精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている方並びに付き添いの方(1人につき付き添い1人まで) ○指定難病特定医療費受給者証の交付を受けている方並びに付き添いの方(1人につき付き添い1人まで) ○生活保護法により扶助を受けている方

友の会ニュース 友の会では皆様のご入会をお待ちしております。

＜あなたも友の会会員になりませんか＞

茨城県近代美術館友の会は、美術を愛好する人たちが集い、美術館の活動を支援しながら、会員相互の教養を高め、親睦を図ることを目的として、幅広い活動をしています。
茨城県天心記念五浦美術館と共通の友の会です。

会員の特典

- 近代美術館と天心記念五浦美術館のすべての展覧会が無料!!
- 海外美術鑑賞旅行や国内美術鑑賞旅行に参加できます。
- 美術講座、学芸員によるギャラリートークに参加できます。
- 会報誌「游美」3回/年、友の会行事案内・美術館資料が郵送されます。
- 図録購入、レストランでの食事に割引があります。



詳しいお問い合わせ

・年会費、ご入会等に関する詳しいお問い合わせは県近代美術館友の会事務局(☎029-243-5111)までお願いいたします。

・友の会ホームページでも年会費、ご入会等に関して確認できます。
<https://fmoma.com>

